

1. 重点課題の方向性について

- 提言の『重点領域¹』を踏まえ、重点的に取り組むべき課題の方向性についてご審議いただきたい。

2. 今後の進め方について

- 提言の『社会的技術の推進イメージ²』を踏まえ、産学官民の英知を結集した課題解決型の取組みにより、成果を国民に還元するための、今後の進め方についてご審議いただきたい。

2：推進イメージ

課題解決型の取組みにより、成果を国民に還元
そのために、目標の明確な設定のもと、適切な役割分担による推進体制を構築
産学官民の英知の結集
・研究開発全体に責任を持つ「プロジェクト・マネージャー」の設置
・意欲と能力のある「プレイヤー」の参画

重点課題の設定

第1回技術部会（H17.9下旬頃）にて決定

技術部会は、社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会にて設置見込みであり、現時点では未設置

1：科学技術により課題解決を目指す重点領域

- (1) 防災・安全
 - 地震・噴火・洪水等の被害を軽減するための技術
 - 交通事故・テロ等から国民を守るための技術
- (2) 基盤再生・革新
 - ストックを診断、解体、再生するための技術
 - 基盤の高度化による競争力の確保、海洋利活用のための技術
- (3) 環境
 - 環境負荷の小さい地域社会を形成するための技術
 - 自然環境・都市環境を再生・創造するための技術

Plan 計画

- 開発目標、研究内容の設定
研究領域・研究目標の設定
工程表の策定(ロードマップ作成等)
- 連携体制の構築
プロジェクト・マネージャー(研究統括者)の選任
プレイヤー(研究参画者)の募集

第2回技術部会（H17.12月上旬）にて案の審議
第3回技術部会（H18.2月下旬）にて決定

Do 実施

- 産学官民の英知の結集
プロジェクト・マネージャーによる進行管理
意欲と能力あるプレイヤーの参画

Action 改善

- 実証を踏まえた改善
問題点を克服するための見直し
- 評価を踏まえた改善
研究目標や研究内容の見直し
連携体制の見直し

“Check” 実証・評価

- フィールドでの実証
課題解決に向けたすりあわせによる問題点抽出
要素技術に対する要求水準の明確化
- 成果主義型の評価
開発目標に対する進捗状況
各研究の相互連携状況

18年度以降

くらしの課題解決の手段

政策による手段と科学技術による手段が存在
両者は相互補完の関係

例 津波被害の軽減

政策による手段

科学技術による手段

・防護施設整備
・避難地確保

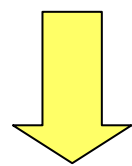
・警報の伝達
・復旧・復興

・被害予測
・津波観測の高度化

課題解決へのアプローチ

国土や社会の状況を的確に把握し、診断・評価して、適切な対応を行う。

(モニタリング、データベース化、実証といったアプローチ)



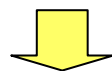
科学技術の役割

“国土・交通のインテリジェント化”

国民の福祉の向上

科学技術を進める上での視点

- 産学官民の英知を結集した
- 課題解決型の取組みにより



科学技術の成果を国民に還元

- あわせて、アジアをはじめとする
世界の人々への還元を視野に入れ取り組む

科学技術により課題解決を目指す 重点領域

(1) 防災・安全

地震・噴火・洪水等の被害を軽減するための技術
(被害予測手法、予兆把握・早期警報伝達システム、
災害発生メカニズムの解明、迅速対応可能な復旧・復興手法、…)

交通事故・テロ等から国民を守るための技術
(ヒューマンエラー防止、運航制御・管制システム、セキュリティ対策、…)

(2) 基盤再生・革新

ストックを診断、解体、再生するための技術
(健全度診断、環境低負荷型解体手法、長寿命化、…)

基盤の高度化による競争力の確保、海洋利活用のための技術
基盤高度化(都市再構築、ITS、高効率輸送システム、…)
海洋調査・利活用(大陸棚調査、洋上風力発電プラットフォーム、…)

(3) 環境

環境負荷の小さい地域社会を形成するための技術
(資源・エネルギー循環、自然資源の有効活用、
環境低負荷型の都市・交通・輸送、…)

自然環境・都市環境を再生・創造するための技術
(水・物質循環の健全化、生態系回復、大気・土壌・水質・海洋汚染防止、
地球規模での気候変動の予測技術、ヒートアイランド対策、…)